

## 2019年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は、より多角的な視点を持つ総合的な人間力の育成を目指している。そのためには、知識や技術を習得するだけでなく、自ら積極的に表現する力、自ら課題を見つけ主体的に取り組む資質の向上が必要となる。将来、国際社会において探究力、自己発信力を備えた真のリーダーとして活躍する素養を育成する取り組みを継続している。

今年度は、意欲的な学習を通して、自らの進路を切り拓いていく力を育てるとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育むことが本校の課題である。

また、SSH事業の実施においては、2期目を迎え、理数教育のさらなる充実を目指し、理数科学科の生徒を中心に人文社会科学科、普通科を含む生徒全員に対して「探究力」「科学的思考力」「自己発信力」を育成することが課題である。これを受け、今年度の具体的重点目標として5分野9項目の目標を掲げた。

「学力の向上」では、各種テストを見直す意識が強くなった生徒は90%と目標に達したが、できなかった分野の復習を学習計画に取り入れている生徒は74%にとどまった。しかし、3年生において校内模試後の解説授業がためになっていると感じている生徒は94%おり、テストの見直しやその後の学習に取り入れている生徒も多い。

「進路意識の高揚と進路希望の実現」では、生徒の満足感が、大学探訪は99%、進路講演会は95%であった。進路希望の実現では、難関大学志望が多い本校生徒の第1志望（国公立大学前期合格）を実現した生徒は46%であった。評価基準の設定を来年度にむけて検討する必要があるが、「第1志望をあきらめない」の精神のもと、来年度再挑戦をする生徒も多くいる。

「読書指導・体力の向上」では、図書館利用を促す広報刊行物の年間発行回数は10回以上の目標を掲げたが30回を超えた。ホームルームで実施する読書の時間も目標の15時間を達成した。読書の時間の必読図書については概ね好評であった。体力の向上においては、73%の生徒が2年次で持久力の自己最高記録を更新した。生徒達は、継続して行ってきたことでトレーニング効果が上がっていることが自覚できた。

「学校行事・部活動の充実」では、体育大会や部活動（3年生対象）の満足度はいずれも100%に近く、さらなる工夫を続けていく。

「探究力・科学的思考力・自己発信力の育成」では、課題研究を探究活動と発表を2種類のルーブリックを使って評価したが、レベル3に達成した生徒の割合が目標の80%を下回り74%であった。アメリカ研修前後の自己発信力が向上については、「外国人とコミュニケーションを積極的にとれるようになった」と回答する生徒が77%であり、目標の70%を越えた。

今後とも、生徒・保護者・地域・社会の期待に応え「日本を代表する優れた人材の輩出校であり続ける」ために、「計画・実行・検証」の学校評価システムを確立し、充実した教育活動を展開していきたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

スーパーサイエンスハイスクール事業が2期目となり、これまで行ってきた理数科学科を中心とした探究的な学習活動を人文社会科学科、普通科に対しても広げ、一層充実させることに加え、生徒達の将来を見据えた、自主的な学習指導や高い進路意識を持たせる指導についてもさらに検討を加えていきたい。

今後、生徒の学力向上を目指すことはもちろん、学校行事や部活動の充実を継続して図り、健全な心身・優れた知性・豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めていきたい。